



NARAJOISC

国際戦略センター奈良女子部会
ニュースレター

2026年
9月30日



国際キャンパス奈良

奈良女子大生による
高取城下の新しい観光コンテンツ
発表会を開催

Presentation on New Tourism Initiatives for the Takatori
Castle Town Area by Students from Nara Women's
University Held

2026年7月4日（土）に、奈良県高取町リベルテホールにて、「奈良女子大生による高取城下の新しい観光コンテンツ発表会第2弾」を開催しました。これは国際戦略センターの授業科目「国際キャンパス奈良への招待A」と文学部の授業科目「コミュニティ・リサーチ」が合同で行った取り組みで、国際戦略センターの「国際キャンパス奈良」構想のなかでは、国内学生と留学生が地域と連携したプログラムに参加することを通じて、学びの地である奈良の国際化を目指す「国際共修プログラム」の事例として位置付けられます。

中川裕介高取町長出席のもと、学生・関係者・一般参加者を合わせて約100人が見守る中、36名の学生たちは6チームに分かれ、日帰りツアーや高取町の名産品を使った商品の詰め合わせBOXの開発、高取町にまつわるキャラクターを登場させたゲームコンテンツの制作、「たかとり城まつり」への出展計画など、多岐にわたるアイデアを発表しました。

今回の観光コンテンツの創出にあたり、学生たちは一般社団法人高取町観光協会やたかとり観光ボランティアガイドの会の協力のもと、町を数回にわたって訪問し、取材を行いました。発表では、学生ならではの斬新な発想や工夫が高く評価され、好評を得ました。

学生たちが企画した内容の一部は、「城まつり」での実現に向けて、引き続き文学部の後期授業科目内で取り組む予定です。また、ツアー企画についても、12月の実施に向けて準備を進めていきます。

On Saturday, July 4, 2026, we held the “Second Presentation of New Tourism Content for Takatori Castle Town by Nara Women's University Students” at Liberte Hall in Takatori Town, Nara Prefecture. This was a joint initiative between NaraISC's NWU course “Introduction to International Campus Nara A” and the NWU Faculty of Letters' course “Community Research.”

Within the International Strategy Center's “International Campus Nara” vision, this initiative is positioned as an example of the “International Collaborative Learning Program,” which aims to internationalize Nara as a center of learning by having domestic and international students participate in programs in collaboration with the local community.

With Takatori Town Mayor Hirosuke Nakagawa in attendance and watched by approximately 100 people—including students, stakeholders, and members of the general public—the 36 students divided into six teams and presented a wide range of ideas, such as day trips, the development of gift boxes featuring Takatori Town's local specialties, the creation of game content featuring characters associated with Takatori Town, and plans to exhibit at the “Takatori Castle Festival.”

In creating this tourism content, the students visited the town several times to conduct research, with the cooperation of the Takatori Town Tourism Association (a general incorporated association) and the Takatori Tourism Volunteer Guides Association. During the presentation, the students' innovative ideas and creative approaches—unique to students—were highly praised and well received.

Some of the content planned by the students will continue to be developed as part of the Faculty of Letters' second-semester courses, with the goal of implementing it at the “Castle Festival.” In addition, preparations for the tour will continue in anticipation of its December launch.

奈良女子大学×菊水楼コラボ 企画「時代カフェ」を出店

Nara Women's University partnered with the long-established Japanese restaurant "Kikusuiro" to open a one-day-only café.



2026年8月9日（土）に、奈良女子大学学生と奈良の老舗料亭「菊水楼」のコラボ企画として、「時代カフェ」を一日限定で実施しました。これは、菊水楼が主催するイベント「菊水祭」のブースの一つとして企画出展されたもので、2025年度後期の国際戦略センターの授業科目「国際キャンパス奈良への招待B」において取り組んだ、「菊水楼での新しい取組みを提案する」という課題の成果をもとに実現したものです。

菊水楼は古都奈良において名士や文豪などに愛されてきた老舗料亭ですが、古くからのお客様だけでなく、若者や海外からの観光客などへの知名度や親しみを増すために近年さまざまな取り組みを行っています。授業で提案されたさまざまな企画のうち、菊水楼スタッフの投票によって選ばれた案が今回の菊水祭で実現されました。

「時代カフェ」出展に参加した学生は留学生を含む33名です。学生たちは6月から本格的に作業チームに分かれて、メニュー表やコースターのデザイン、会場レイアウトや給仕スタッフの衣裳の検討、ポスター作成やSNS投稿による宣伝活動などに取り組みしました。当日は給仕スタッフとして18名が菊水楼の一室「オリエンタルルーム」に立ち、訪れた客への対応やドリンクの調理などにあたりました。

当日の来客者数は300名を超え、菊水祭の他のブースとともにイベントを盛り上げました。奈良女子大学と菊水楼はともに明治期からの歴史があり、両者のつながりは、「国際キャンパス奈良」構想のなかの、地元産業や地域の人々との連携の一つの成果となりました。

謝辞：本イベントの実施にあたり、フレンドシップフォース奈良さまには衣装として浴衣を貸与していただきました。快くご協力くださり、誠にありがとうございました。

On Saturday, August 9, 2026, we held a one-day-only "Jidai Café" as a collaborative project between students from Nara Women's University and "Kikusuiro," a long-established traditional Japanese restaurant in Nara. This event was organized as one of the booths at the "Kikusui Festival," an event hosted by Kikusuiro, and was made possible based on the results of a project undertaken in NaraSC's NWU course "Introduction to International Campus Nara B" during the second semester of the 2025 academic year, in which students were tasked with "proposing new initiatives for Kikusuiro."

Kikusuiro is a long-established traditional Japanese restaurant in the ancient capital of Nara that has been beloved by prominent figures and literary giants alike. In recent years, however, it has been implementing various initiatives not only to retain its long-time patrons but also to increase its visibility and appeal among younger people and international tourists. Among the various proposals presented in class, the idea selected by a vote of the Kikusuiro staff was brought to life at this year's Kikusui Festival.

A total of 33 students, including international students, participated in the "Jidai Café" event. Starting in June, the students divided into work teams and began working in earnest on various tasks, including designing the menu and coasters, planning the venue layout and serving staff uniforms, and conducting promotional activities such as creating posters and posting on social media. On the day of the event, 18 students served as waitstaff in the "Oriental Room" at Kikusuiro, where they attended to guests and prepared drinks.

More than 300 visitors attended the event, and our booth, along with the other booths at the Kikusui Festival, helped liven up the festivities. Both Nara Women's University and Kikusui-ro have a history dating back to the Meiji period, and the connection between the two has become one of the outcomes of the "International Campus Nara" initiative in terms of collaboration with local industries and the community.

Acknowledgments: For this event, Friendship Force Nara kindly lent us yukata to wear. We would like to express our sincere gratitude for their generous cooperation.



交換留学にいきました。

帰国後レポート

Exchange Program
Reports



交換留学で海外の協定校へ留学していた学生が感想を寄せてくれました。

みなさんも 交換留学に挑戦してみませんか？

文学部言語文化学科日本アジア言語文化学コース 2年（留学時） 森 友香
梨花女子大学（韓国） 留学期間：2025.9～2026.6

梨花女子大学を選んだきっかけ

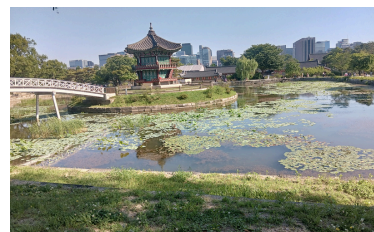
私は大学で日本文学や中国文学を学ぶ中で、東アジアの文化や言語のつながりに興味を持ち、「日本にとっても近い韓国についてもっと深く知りたい」と思ったことが留学のきっかけでした。梨花女子大学を選んだ大きな理由は、派遣された先輩から「留学生へのサポート体制が本当にしっかりしている」と聞いていたからです。実際に現地に行ってみると、留学生と現地の学生が交流できるサークルがあり、現地の学生が生活や学びを親身にサポートしてくれました。また、先生方も留学生の立場に寄り添って優しく接してくださり、初めての長期留学でも安心して大学生活を送ることができました。

留学先での生活

実際に韓国で生活してみると、日本とは違うことがたくさんあり、毎日が新鮮でした。現地の学生たちと一緒に受ける授業では、日本文学作品に対する捉え方や、日本と韓国の文化の違いについて意見を交わし、日本にいる時には気付けなかった新たな視点をたくさん得ることができました。グループ発表で現地の学生と協力してスライドを作ったり、プレゼンテーションをやり遂げたりした経験は、学業面での大きな自信につながりました。また授業以外でも、課題の合間に現地の友達とキャンパス近くのおしゃれなカフェに行ったり、休日にソウルの街を探索したりと、韓国ならではの日常を心から楽しむことができました。



ビョルマダン図書



景福宮

留学を通して

留学生生活を振り返って今一番強く感じるのは、人の温かさへの感謝です。韓国の空港に初めて降り立ち、一人で大学へ向かう不安でいっぱいだった私に、優しく声をかけて助けてくださった韓国人のご夫婦のことや、国籍を超えて今でも毎日連絡を取り合えるかけがえのない友人と出会えたことは、留学生活の中でも特に大切な思い出です。ただ、すべてが順調だったわけではありません。思うように言葉が通じずにもどかしい思いをしたり、周りの留学生と自分を比べて落ち込んだりしたこともありました。それでも、諦めずに自分に合った交流を模索し、勇気を出してたくさんの人と交流を重ねていくうちに、少しずつ心が通じ合う嬉しさを実感できるようになりました。振り返ってみると、こうした経験も含めて、私にとって忘れられない留学になったと感じています。



梨花女子大学ECC

理学部数物科学科数物連携コース 3年（留学時） 谷川薫
レスター大学（イギリス） 留学期間：2025.9～2026.6

私が交換留学をしたレスター大学は、イギリスのミッドランズ地方にあるレスターという街にあります。ロンドンなどの大都市ほど賑やかではないですが、過ごしやすい街です。交通の利便性が高いだけでなく、インド系をはじめ多様な背景を持つ人々が暮らす国際色豊かな環境が大きな魅力でした。街の中心部には大きなアジアン食料品店があり、日本食が恋しくなった時には自炊ができたため、ホームシックになることもありませんでした。大学にも世界中から学生や教員が集まっており、友人たちのバックグラウンドも様々でした。日常会話の中で自分では考えもしなかった視点から質問されることも多く、個人のアイデンティティを形作る要素の多さに驚くと同時に、自分自身を見つめ直す貴重なきっかけになりました。現地で出会った友人や地域住民の方々とさまざまなイベントに参加し、交流を深めたことは本当に良い思い出です。

学業面では、専門である物理と数学に加えて、せっかくの機会なので他学部の授業にも挑戦しました。授業の内容やスピード感についていくのは大変でしたが、講義の録画・録音配信や配布スライドなどのおかげで、知見を大きく広げつつ無事に全ての単位を取得することができました。一方で、ディスカッションや試験等で専門知識についての考えを英語で表現する難しさも痛感したため、この悔しさを糧に今後も英語の勉強を継続しようというモチベーションにもなりました。

そして、プライベートがとても充実していたことも今回の留学の大きな魅力でした。イギリス国内のアクセスの良さを活かして主要な美術館や博物館、歴史遺産をたくさん巡ることができました。さらに長期休みを利用してヨーロッパ諸国へも足を延ばし、スウェーデンでクリスマスを過ごししたり、フランスで美術館巡りをしたりと、とても贅沢で刺激的な時間を過ごせました。

約8ヶ月という期間はあっという間でしたが、周囲の人々にも恵まれ、最高に楽しく実りある留学生活となりました。海外で生活ができるという自信がただけでなく、学問への向き合い方や人との接し方を学べる素晴らしい機会になったと感じています。ここで得た新たな視点や経験を大切に、これからの大学生活や将来の選択にしっかり活かしていきたいです。



よくランニングした大学横の公園



大学のカフェテリア等が入っている建物



文学部人間科学科心理学コース 3年（留学時） 戸井千尋
リンカーン大学（ニュージーランド） 留学期間：2026.2～2026.6

ドライブ中、マップを開くと「100キロ直進」の文字。どこまでも続く直線道路と、窓の外に広がる緑の中で草を食べている羊や牛。「壮大な自然」とはこのことかと実感しました。これまで見たことのない景色に魅了され、ニュージーランドで過ごす時間への期待がさらに高まりました。

一方で、大学から市街地へショッピングや食事に出かけるには、バスで1時間近くかかります。毎日おしゃれなカフェで勉強をしたり、友達と買い物をしたりするような、いわゆる「キラキラした留学ライフ」とは少し異なるかもしれません。しかし、そうした環境だったからこそ、大学の寮で友達と過ごす時間が自然と増えました。様々な国籍の友達と毎日一緒に



食事をし、課題に取り組み、休日には旅行に出かけたりする中で、当たり前だと思っていたことが、文化や価値観によって大きく異なることにも気づきました。

また、留学中は英語で自分の思いを十分に伝えられず、悔しい思いをすることもありました。それでも、英語を完璧に話せるようになってから交流するのではなく、「伝えたい」という気持ちを持って英語を話すことの大切さを実感しました。寮での生活や授業、旅行などを通して、さまざまな国の友達ができ、帰国後もまた会う約束している友達もいます。言葉や文化の違いがあっても、一緒に過ごす時間を重ねることで、少しずつお互いを理解し、深い関係を築くことができたと思います。

また、大学の先生、スタッフの方々も、私の英語にも耳を傾け、困っていることはないかと親身になって支えてくださりました。完璧な英語でなくても、伝えようとする姿勢があれば、人とつながることができる。そのことを、身をもって学びました。

私は以前から教員になることを目指していましたが、今回の留学を通して、将来は子どもたちに英語を学ぶ楽しさだけでなく、英語を使って人と関わる楽しさも伝えたいと思うようになりました。学校で英語を学んだからといって、誰もがネイティブのように英語を話せるようになるわけではありません。私自身も英語に自信があったわけではありませんが、半年間海外で生活し、さまざまな国の友達を作り、英語で授業に参加することができました。この経験を生かし、子どもたちにも、英語の点数UPだけを目標にするのではなく、「英語で誰かと話してみたい」という気持ちを大切にできる教師になりたいです。



生活環境部文化情報学科 2年（留学時） 植田胡春
ルーヴェン・カトリック大学（ベルギー） 留学期間：2025.9～2026.6

国際寮で世界中の友達と暮らす

ルーヴェン・カトリック大学は1万人以上の留学生が在籍する大学。私は、数ある大学寮の一つに1年間住んでいました。フラットメイトは、私を含めて12人。台湾、ベネズエラ、ウクライナ、トルコ、ポルトガル、ブルガリアなど、あらゆる国から、それぞれの専門分野を学びに留学していました。共用キッチンだったため、朝昼晩に顔を合わせることが多く、毎日のようにお喋りをするうちに家族のような関係になりました。私が日本人の友人を呼んで日本食パーティーをするときはフラットメイトも誘って一緒に日本食を楽しんだり、反対に他のフラットメイトがつくった伝統料理をごちそうになったり、キッチンでお喋りしながらご飯を食べる時間は今でも恋しく思います。

日本とは違う視点で学問をする

前期・後期を合わせて8つの授業を受講しました。EUや、芸術、ジェンダーなど幅広い分野を学びましたが、ここではその中でも印象に残った授業を2つ紹介します。一つは、前期に受けた日本史の授業です。「日本史をベルギーで？」と思うかもしれません。私が面白いと感じたのは、同じ歴史でも、国によってその「伝え方」や「見方」が異なることでした。

第二次世界大戦について学ぶ際、日本だけでなく、当時のヨーロッパ諸国がどのような背景や考えのもとで行動したのかという視点から歴史を捉えることで、日本で学んできた歴史とはまた違った側面が見えてきました。日本を離れたからこそ、日本について新しい角度から考えることができた経験でした。もう一つは、学士学生でありながら特別に聴講させていただいたフェミニスト神学という修士向けの授業です。キリスト教の神学や聖書の解釈を、女性の視点から考える授業でした。毎週、キリスト教やフェミニズムに関する文献を課題として読み、それをもとに授業内で議論を行います。私はキリスト教のバックグラウンドを持たないため、一つひとつの言葉や概念を理解することにとっても苦労しました。キリスト教の友人に分からないことを聞いて回っていたのもいい思い出です。日本ではなかなか学ぶことのできない「宗教×ジェンダー」という分野に触れられたことは、大きな学びになりました。キリスト教文化が根付くヨーロッパで、キリスト教そのものについて学ぶことができたのも、貴重な経験でした。

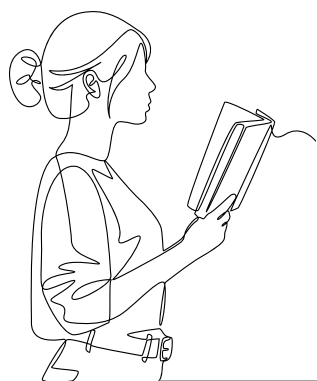
いちアジア人女性として戦う

欧米への留学を考える学生にとって、不安の一つに人種差別があると思います。悲しいことですが、私自身も留学した1年間で、何度も人種差別を経験しました。それでも、このことを書こうと思ったのは、こうした経験があったという事実を隠さず、残しておきたいと思ったからです。特にアジア人に対する差別は、他の人種への差別と比べて、見えにくくされているように感じることがあります。普段ルーヴェンで生活している中では差別を受けることはほとんどありませんでした。しかし、パーティーで酔った学生から差別的な言葉を投げかけられ、笑われたことがあります。アジア人の友人と旅行をした際にも、差別的な言葉を叫ばれたり、通りすがりにぶつかられたりするなど、ここには書ききれないほどの経験がありました。そして、こうしたことが男性や他の人種の友人と一緒にいるときには、ほとんど起こらなかったことも印象に残っています。

あるとき、電車の中で男性から差別的な言葉を投げかけられたことがありました。いつもなら無視していましたが、そのときは思わず大声で言い返しました。すると、相手は驚いた様子で席を立ち、その場からいなくなりました。「アジア人で、女性で、弱そうに見えるから、反撃してこないと思われるのではないか」と感じたとき、悲しさと怒り、そしてやるせなさで胸がいっぱいになりました。もちろん、危険な状況では無理に立ち向かう必要はありません。でも、差別を受けたときに「自分が弱いからだ」と自分を責める必要もないと思います。留学先でどんな経験をして、自分自身の価値を否定されたわけではない。そのことは、忘れないでほしいと思います。

世界遺産も持つ歴史いっぱいの街で学ぶ

ルーヴェン・カトリック大学は、設立から600年以上という、世界でも長い歴史を持つ大学です。いつも勉強していた図書館も、散歩ルートだったベギン会修道院も、授業を受けていたキャンパスも、まるでおとぎ話に出てくるような、歴史を感じる場所でした。そんな街で、世界各国から集まった友人たちと生活し、学問について考えた1年間は、私にとって本当にかげがえのない経験になりました。留学に行くか迷っているなら、ぜひ一歩踏み出してみしてほしいです。きっと、今まで知らなかった世界だけでなく、今まで知らなかった自分自身にも出会えると思います。



交換留学について

交換留学を希望する方はこちらの内容をご確認ください。



留学についての相談

相談フォームよりご相談ください。対面またはメールにてご対応します。





NaraISCオーストラリア研修報告

8月29日～9月7日の日程で、NaraISCオーストラリア研修を実施し、奈良女子大学から10名、奈良教育大学から4名の計14名の学生が研修に参加しました。滞在中、平日はSPCケアンズ／サン・パシフィック・カレッジにて英語クラスの受講やアクティビティに参加しました。宿泊はホームステイのため、研修期間中は終日英語に浸ることができました。またキュランダ、コアラ園、グリーン島の観光も楽しみました。

● student's Voice ● (研修後レポートから一部抜粋)

「英語の授業を受講した感想を教えてください。」

- ・ 習う内容的には中学校、高校で習うようなことだけでも、英語オンリーという制度の中で習うと手応えがある授業だった。
- ・ 先生がその都度私たちの理解度を確認してくれて、簡単な英語で言い換えてくれたりしてくださったので、分かりやすかったです。
- ・ 大学の講義とは違い、発言や話し合いを重視した授業だったため、自らの考えを英語で話すという姿勢が身についた。
- ・ 全て英語での説明だったため、難しかったが、クラスは自分に適したレベルだった。英語で話すことの楽しさを感じた。



「自分の語学力はどのように変化しましたか？」

- ・ 最終日に近づくにつれて、ホストマザーの速い英語に耳がついていけるようになったとき。
- ・ 日本語で話す内容を文で考えてそれを英語にするのではなく、話す内容が頭に浮かんだらそれを直接英語で話すことができるようになったとき。
- ・ 期間が短かったので劇的に変化することはなかったが、知らない単語やフレーズに出会ったり、会話がよりスムーズにできるようになったと感じる。
- ・ ホストファミリーが何を話しているのかが分かるようになってきた時。
- ・ いちいち頭の中で日本語から英語に変換するのではなく、時々ではあるものの、咄嗟に（日本語から日本語への変換を介さずに）英語で話すことができるようになった。
- ・ ホストファミリーとの会話が1ターンで終わるのではなく、何ターンか続いた時。
- ・ ホストマザーに話しかけられてすぐに意見を伝えられたとき。
- ・ 語学力が上がったとは感じないが、英語を学習するモチベーションは上がったと感じる。
- ・ ホストファミリーとの会話の中で、自分の考えを頭の中で翻訳せず、瞬発的に言葉にして伝えられたときや、積極的に自分から話しかけられるようになったと実感したとき。

「ホームステイで良かったこと、悪かったことは何ですか？」

- ・ 出発前は不安だったが、ホストファミリーが親切で、不満や不足を感じることなく毎日楽しく過ごせた。オーストラリアには様々な国籍の人が暮らしていると知った。
- ・ 食事が合っていた。基本的に自由に生活させてもらっていたこと。ただ、自由すぎるあまりに、ホストファミリーとの時間があまり無かったことが悲しかった。
- ・ 寝る時間や起きる時間が日本でいる時よりも健康的で、よかった。ホームステイではホストマザーと毎日話して英語力も高められた。また、英語を流暢に話せなくても優しく聞き続けてくれたり、わかりやすい言葉に言い換えてくれたことで困ることなく生活できた。気になることがあればとりあえず話してみることが大事だと学んだ。
- ・ 生活の中で英語を使うことでより実践的に語学力を向上させることができた点が良かった。一方で食文化の違いに少々戸惑うこともあった。また、オーストラリアで生活したことで、現地の人々のリラックスした生き方に触れることができた。



その他実施研修・イベントの実施報告

7/12－7/18 サマープログラムMAHOROBAを実施

8/2－8/8 サマープログラム万葉を実施



MAHOROBA



万葉

詳細は「Narajois 特別号 サマープログラムMAHOROBA」
「Narajois 特別号 サマープログラム万葉」に掲載して
います。

8/24－8/28・9/7－9/11 海外オンライン研修

8/26－9/9 フィリピン セブ研修

詳細は「特別号 Narajois グローバル女性人材養成プログラム（フィリピン）」に掲載しています。

English Open Talk

7/14 サマープログラムMAHOROBA特別回として、一般の方も参加できる特別回を開催し、14名が参加しました。



今後の予定

- 10/24 留学生実地見学旅行
- 10/20 春休みニュージーランド研修 募集説明会
- 10/21 春休みヨーロッパ研修 募集説明会
- 11/18 茶道教室
- 12/2 いけばな教室

English Open Talk、留学生主催の国際交流イベントについては、下記サイトまたはSNSにて随時発信していきます。

Instagram



X



留学情報
(moodle)



ならじよから
留学HP



NarajoiSCバックナンバーはこちら

NEWSLETTER

